

2015年度 第1回 番組審議会 議事録

I. 開催概要

2015年6月8日(月) 15時30分～16時30分 キッズステーション本社会議室

II. 出席者

1. 審議委員 : 7名

鵜沢由美子 (明星大学 人文学科 人間社会学科 准教授)
蛭原英里 (チャイルド・ボディ・セラピスト)
北風祐子 (株式会社電通 マーケティングソリューション局 部長)
菅谷 実 (慶應義塾大学名誉教授)
高芝利仁 (弁護士)
田口成光 (脚本家・放送作家)
大地丙太郎 (アニメ監督)

[50音順;敬称略]

2. 事業者側 : 6名

[経営] 宮内康行(代表取締役社長CEO)、北折尚志(取締役COO)
[制作] 押田聖弘(制作部長)、竹内誉人(部長代理)
[事務局] 飯野博之(経営企画室長兼広報室長)、沼生祐介(広報室員)

III. 議事内容

1. 社長挨拶 株式会社キッズステーション 代表取締役社長CEO 宮内康行

本日はお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。キッズステーションのスローガンは夢・感動・そして創造ということで、未就学児童をターゲットに良い番組を制作、放送していこうと社員一丸となり頑張っております。番組審議委員の皆様からのご意見を参考に、より良い番組作りに活かしたいと考えています。是非、忌憚のないご意見を頂きたいと思っておりますので、今年1年間よろしくお願い致します。

2. 番組審議会構成メンバー紹介

キッズステーション側出席者のメンバー紹介を行い、続いて番組審議委員のメンバー紹介を行った。

3. 委員長、副委員長の選出

本番組審議会の委員長は北風氏、副委員長は田口氏がそれぞれ選出された。

4. 番組審議 司会進行: 北風委員長

1) 対象番組: 「ハピクラ」

① 番組説明

- タイトル : 「ハピクラ」に関する資料を事前配布
- 放送日時: 初回2015年4月6日(月)午前6:00スタート、リポート午前9:30から
- 主要対象: 未就学児童、母親
- 放送尺 : 60分(HD)
- 作品紹介<概要>

1歳～6歳のお子さま向け“楽しくてためになる”人気子ども番組「ハッピー！クラッピー」は装い

も新たに、「子育て TV ハピクラ ～Happy Clapping Time～」、通称「ハピクラ」にリニューアル！ イオンシネマの劇場で行われる公開収録を月替わりで放送する「ハピクラふれあいコンサート」、元気のない動物をダンスで元気にする「アニマルダンスサイズ」など、新コーナーも登場！ 「ハピクラ」「おやこでクッキング」「ゴーゴー！のりものタウン」、3番組続けてオンエアする「ハピクラ♪タイム」をお見逃しなく！！

②合評： 委：番組審議委員／局：キッズステーション

局： 本番組は、1歳～6歳までの未就学児向け番組として、オリジナルのキャラクターにて今の形となったのが6年前。最初の3年間は新山千春さんにMCを務めていただき、その後イベント展開を考え、3年前から新人の玉井雅世さんをお願いし、番組進行をしながら全国でイベントを実施している。あわせて、2年前にハピクラのファンサイトを立ち上げ、ターゲットとするお客様に密に接する場としてWEBとリアルイベントを同時展開し、放送、ネット、リアルを三つ巴で活用している。

このたび4月にリニューアルを行い、「ハッピー！クラッピー」という番組から「子育てTVハピクラ」と名称と内容変更し、よりターゲットに向けた内容強化を行っている。

強化ポイントとしては、キッズステーションはリアルイベントできる場所を持っていないのでイオンエンターテイメント様（イオン様）と相談し、映画館をお借りしてイベントを実施し、その模様をレギュラー収録の中に取り入れていくというもの。

年間で18会場のイオンシネマを回ることで、キッズステーションのターゲット層がベッドタウンに住まわれている場合が多くイオンがその身近にあるので、リアルイベントを展開している。昨日、一昨日もイオンの浦和美園と新百合ヶ丘を回ってきたところであり、リアルな場所でのお客様との直接のふれあいを強化している。

4月からの3話分が視聴頂いたものとなる。

委： この番組ははじまって何年か。

局： この形では7年目、その前はMCに久保純子さんとラスカルが登場するが、オリジナルのキャラクター ラッピーを活用したのが6年前からである。

委： イオンでの展開は全国展開か。

局： 通常の番組収録は関東のイオンでミニマムのイベント内容にて、観客席も140席の映画館で実施しているが、今年の夏と冬、来年の春は東京、名古屋、大阪の少し大きな会場で実施予定である。

委： 制作にスーパーエキセントリックシアターさん（SETさん）が入っているが。

局： もともとはキッズステーションの別番組の制作にSETさんの演者の方も入っていたので、番組の本編をお願いしていた。

委： SETさんのテイストは入っているのか？

局： リアルイベントのときに、忍者隊というのがいて、3人の演者さんがSETさん所属であり、子どもにはわかりづらいが大人が見てクスッと笑う要素を番組でもイベントでもひとつのスパイスとして考え、取り入れている。

委： 印象深かったのはジャスティスという言葉が出てくるが、どうしてジャスティスという言葉を選んだのか？ また小さな子どもたちはどう捉えるのか、その経緯を教えてください。

局： ハピクラジャスティスという企画以前にはハピクラファイブというものがあり、マナーを教えるヒーローが5人いた。以降の新しい企画で、マナーよりもしつけという点に焦点を当て、前向きに行こうとか、前向きにやる方がいいんだよ、ということ伝えるほうが良いのではということになった。イベントでも、ハピクラジャスティスがピンチになると、子どもたちが応援して、応援すればするほど正義のパワーのリミッターが上がっていく仕掛けとした。あえてジャスティスの説明はせずに子どもたちが将来わかってくれればいいかなと思う。

委： ジャスティスが謝る、謝らないの場面があり、導入が難しいと思った。

何を嫌がっているのかがわかりずらかった。小道具がある方が良いのでは。

局： 大人が喜ぶ寸劇芝居の部分も入れなくてはとの使命感があり、逆に難しくしてしまったかなと思う。大人が楽しんでもらえるレベル感はいつも悩んでいる。

私（大人）はわかるけど、子どもはわからないというお声も頂いており、両建てのバランスを取るのは日々勉強中。

委： ジャスティスという言葉は少し引かかった。絶対いけないことは何かとするなど話は分かりやすいほうが子どももわかるかなと思う。「はかない」という言葉は難しすぎないか、かわいいとか楽しいとかを映像を交えていろいろな言葉を覚えていくのが良いのでは。あと、ひらがなを教える所があり、言葉と重ねて行けば良いかもしれない。

また、この言葉があるからこのひらがながあるなどの連動性がある方が良いと思った。歌のお姉さんの声がきれいなので、沢山歌ってもらえれば良いかと。オリジナルキャラにはもっと明確な性格を与えて出したほうが分かりやすい。親としては、食育やら素朴な昔話をに入れてもらおうとか。繰り返しにはなるが、連動性と親が見せたいものがあればより効果的ではないか。

局： 着ぐるみのキャラについては、実は着ぐるみだけの話は相当数作っており、キャラクターを前面に出して、日々の子どもの生活の中で起こるストーリーは入れており、個別で投入する準備も進めている。連動性においては足りない部分もある。アーカイブ性を高めることに重点置いているので、それが済んだら手をつける。食育についてはハピクラタイムの中で「おやこでクッキング」という番組がありそこで展開してい

る。イオンシネマのショーは 60 分であり、その中で、いただいた内容はなるべく網羅できるように取り組んでいるが、編集上番組の中には一部しか取り入れていない。

委： シネコンを利用しての交流には興味がある。市民ホールでの同時中継などもできると
思うが、将来の発展形があるといいと感じた。子育て TV なのに、「はかない」とい
うのは子ども向けではないと思った。風の音や波の音など効果音をつくりだす部分は
古風で良かった。全体の流れとしては、子どもにもっと分かりやすいほうが良かった。

局： ライブビューイングはコストがかかるので、実施していない。もともとは有料イベン
トを展開しているが、イオン様とは相互にメリットとなるポイントを追求し、現状の
形にはなっている。これまで数多くの試行錯誤は繰り返してきており、ファンサービ
スと新しいお客様の開拓をしたいと考えている。当然、採算を考えていくことになる
が、イオン様との取り組みを通して次のステップを考えていきたい。

委： 物品販売はしているのか。

局： している。

委： 入場料はいくらか。

局： 1 歳以上は子どもも大人も 1 名一律 1,500 円

委： 全国を回るのはすごいと思った。ふれあいとか、親と子をつなぐという意味では、
全体をつなげる仕組み、例えば、絵のコンテストとか、ヒーローになれる写真募集を
して全国の皆に伝える企画などがあってもいいのではと思った。

印象は、すごく明るくて自分も楽しくなった。悪者と善人の対照にて、子どもにもわ
かりやすいと思った。色も鮮やかで良かったが、ずっと見ていると途中で疲れてきて、
小さな子どもたちは大丈夫なのかなと思った。

局： 意図的にキラキラさせている部分があり、セットが派手だと登場人物が薄まってい
くこともあり、多少反省もしている。未就学児の子どもはもって 10 分くらいか
と思うので、コーナーをたくさん作り、子どもたちの興味を引ける工夫はしている。
また、ひらがなのコーナーの次は歌にするなど視聴習慣の中のリズムはできるだけ統
一するようにしている。

委： 歌が好きで、子どもと一緒に歌いたいが、歌詞は少しでも早く画面に出してもらえ
る方がついていきやすいので、そのようにして欲しい。

局： 現状はプロモビデオのようにやっているが、検討する。

委： 手遊び歌なども増えていいなと思う。効果音の出し方なども良かった。

局： 他局との差別化も考えながら、やっている。

委： 手のしぐさで何ができるかはアレンジするともっと良いのでは。

局： イベントではやっている。

委： グーチョキパーの遊びは面白かった。演出についてもころあいが良かった。

ただ、見終わったときの印象は薄く感じた。もっと強烈な忘れられないものがあったも良いと思う。

局： キャラクターは成長戦略の観点から早く独り立ちさせたいと考えている。そこにいくまでは演者さんの協力も必要だし、バランスが大事であると考えている。

委： キャラクターについてはこの3話分では個性はわからないが、数字に弱いとか苦手な部分があったり、もっと人間味があって印象に残るキャラがあるといいと思う。

局： 展開が多すぎて、散漫になっているところが課題。各々の設定はあるが、それを伝えるところが一つの番組としてはないので、考えないといけない。

委： 演者の立ち位置が、場面によって異なっているのが気になる。なるべく同じ立ち位置の方が覚えやすいのでは。

局： 検討する。

5.報告事項

・第2回番組審議会開催日： 9月10日(木) 15:30～

・第3回番組審議会開催日： 11月16日(月) 15:30～

以上